

とよた森林学校だより

森林入門セミナー いまさら聞けない森林・林業で最初に知るべきこと

こんにちは！豊田市 森林課の柴田です。
今回は私から、今年の「森林入門セミナー」について紹介します。
今年度は森林課と森林組合の新人職員の研修としても位置付けがされ、森林課の新人4人と森林組合の新人作業員3人も参加しました！参加者も職員も、大満足の様子でした。



▲ハナノキ群生地の観察



▲400歳のブナの神々しさよ～



▲様々な森林の状態を学ぶ

第1回 「人工林と天然林、森林の持つ働き」 5月7日(日)

第1回は、残念ながら…とてつもない雨でした。

本来であれば、旭高原で座学を受けた後、水源の森とハナノキの自生地を散策する予定でしたが、今回は水源の森を断念しました。残念！

ただ、参加者は貴重なハナノキの自生地が見れたこと、北岡講師の座学が聞けたこと、折り紙でのカエデの種づくりを体験できたこと等により、満足げに帰路につかれた様子でした。

第2回 「ブナ原生林の観察」 5月21日(日)

第2回は、面ノ木峠で、ブナの原生林を観察しました。

今回は天候にも恵まれ、非常に爽やかな気候でした。

400歳のブナの神々しさや、単葉や複葉といった葉っぱの概念などを紹介しました。

原生林を体で感じ、まずは森を楽しむこと、そして知ることがとっても大事だと改めて思いました。

第3回 「森林の公益的機能・防災」 6月4日(日)

第3回は藤岡交流館で、東大の蔵治先生の講義を受けたあと、瀬戸市にある東大の演習林で、現地観察を行いました。

2グループに分かれ、蔵治先生と、シデコブシの会の方が案内をしてくださいました。

蔵治先生の講義で歴史的な背景をつかんだ後、現地で様々な森林や施設を見ることができました。

意図的につくられた過密人工林、下刈りしてない人工林、古い人工林、若い人工林、水量観測施設など…。まさに、森林の公益的機能や防災について深く学ぶことができました。

第1回 「森に入って調べよう」 5月27日(土)

「森と暮らし」の真相にせまる!

山あいの美しい田んぼ。きれいに稲苗が植えられている。「あれ? とも変だぞ。田んぼの南側だけ数m幅だけ稲が植えられていない!」

Hさんが語る。「10年前までは植えていたんですけどね。あのヒノキの山の影で太陽の光がまったく当たらなくなってしまって…。稲が育たないんですよ。あ、あの山は私のところの山なんですけどね。」

地元山主のHさんの田んぼに隣接する樹高23mのヒノキの山。その山に入り「森の健康診断」調査をする。

混み具合も健全だし、何よりも30種以上の樹木や草が、ヒノキ林の下に繁茂する、とても植生豊かな健康な人工林であった。

「豊田市の森林課支援で、押井町の山主が地域森づくり会議を立ち上げ、森の団地化、間伐作業を森林組合がやってくれた。費用は市が負担。ヒノキ林が保全されているのは、本当にありがたい。」

しかし、田んぼの日陰になるヒノキの伐採はしない。森林保全のための支援はあっても、基本的に田畑や人家、道路への影響がある樹木の伐採支援は、今のところない(一部例外的に部分実施)。

「通行の安全のため、道路にかかっている自分の山の樹木を、森林組合に伐ってもらったが、50万円かかりました。もちろん全額自費です。大きな広葉樹でした。自分で伐るなんて危なくて…。」

とよた森林学校の「地域の森・健康診断」、第1回目「森に入って調べよう」に参加の総勢40余人、6班に分かれて、それぞれ押井町の山主さんがガイド、森林ボランティアと自然観察リーダーがついて、人工林と天然林、山の暮らしの調査と見学と聞き取り。「森林と暮らし」の新しいアプローチを考えた。

第1回目は、とても充実して示唆的な気づきと、学びがあった。

参加者の感想

山主から

- 「森と暮らし」というテーマに多くの参加者が関心を持っていただけたことに感謝したい。
- 人が暮らせる地域が続いていくことが健全な森を守り国土や環境を保全することになると確信した。

他地域からの参加者から

- 参加者の各地域の実情、取組み、林業の実情、行政との関わりなど楽しく知ることができた。
- 森の観察…主観的ではなく客観的科学的に森林を見る方法が良かった。自分の地域の森林の実情をまず把握する必要がある。
- 地域と森の関わり…自分の問題意識はここなのだが、先進的な取り組みをしている押井地区でも過疎化や山の荒廃の問題があることを知った。藤岡北部は中山間



▲あれ? 変だぞ、あそこだけ稲が植えてない!



▲ツーカーの指示に従って、人工林で「森の健康診断」を実施



▲山主さんのスギ林の現状を聞く

地ということで、より都市との関わり(不在地主、盛り土や不法投棄、業者の乱開発、なおかつ高齢化過疎化)が問われるが、課題は同じと感じた。

次回、2回目は7月22日「地域の森を考えよう」

プロが人工林・天然林を案内し、蔵治東大教授の講演と話し合いが行われる。乞うご期待! まだ申し込み可。

- 「豊田市・森の総合サイトTomori」から申込
- お問合せ/山本まで

お詫びと訂正

2023年3月号の2ページ目、「森林と災害」の記事の一番上の写真の説明が、間違っていました。「▲矢作川上流を…」となっていますが、これを、「▲九州北部豪雨で川を覆い尽くす流木」と訂正してください。よろしく願います。

身近な樹木調べ

第1回 「矢作川沿いの樹木の観察」

5月14日(日)/月原町



久しぶりに復活した樹木観察の講座、身近な樹木調べです。矢作川沿いの樹木、温帯性の樹木、東海地方固有の樹木の3回シリーズで、豊田市内で見られるたくさんの樹木を観察します。

この講座は講義とフィールド調査を組み合わせ、樹木の調べ方、楽しみ方を身につけてもらうことがねらいです。

初回は5月14日の矢作川沿いの樹木です。

午前には北岡講師が採取された木の枝を用いて、単葉か複葉か、対生か互生かなど樹木の調べ方を説明されました。

午後は月原に移動し、ハシバミ、ツクバネ、ハナイカダなど、この地点に特徴的な植物を観察しました。

天気予報は雨とのことでしたが、幸い傘をさすことなく終了しました。

確認した樹木の種数は129種と参加者の予想を大きく上回りました。(中根)



△ハナイカダの雌花

●花の表面に花を咲かせるための「花柄」を、葉の裏面に「船」の形にしている。花柄は黒い果実をつくる。葉の裏面に黒い果実をつくる。葉の裏面に黒い果実をつくる。

▲ハナイカダは、花序の軸と葉の主脈とが結合して一つになっているので、葉の真ん中から花が咲いているように見える。茎から花が出る、という植物界の基本ルールをちゃんと守っている。

蔵治先生、教えて！



蔵治先生は、森林学校の校長先生で、大学院で「森と水と人との関係」や、「地域森林自治」の分野を研究する教授です。蔵治先生の「知識のダム」から、私たちに、森のことを少しづつ、放流していただきます、お楽しみに！

その1 リーキードラム(イギリス)



▲小溪流に複数の丸太を渡したリーキードラム

2023年3月に、イギリスの「流域治水と森林」の取り組みを現地視察する機会がありました。

近年の気候変動の影響は、世界中に及んでおり、イギリスでも近年、大雨による洪水被害が起きています。

洪水を少しでも軽減するための手段の一つとして「自然をベースとした解決策」(NbS)が、農地や森林で実践されており、市民主導で作業をしているのが特徴です。

写真はそのうち「リーキードラム」(水漏れダム)と呼ばれるもので、小溪流に複数の丸太を渡しただけの簡易なものです。

通常時の川の水は、丸太の下を流れ、丸太は流れを阻害しません。

洪水時には流れを丸太が阻害するようになり、やがて上流側に洪水流が滞留し、水を一時貯留するとともに、流速を遅らせる機能を果たします。

丸太は金属のベルトで兩岸の立木に固定され、オーバーフローしても丸太が流れないようにしています。

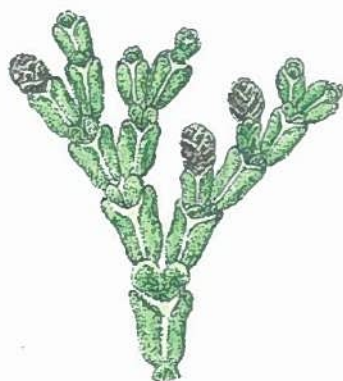
洪水時に上流側に土砂がたまりますが、洪水が終わって水位が下がると、流水によって土砂は流れていきます。枝葉などの詰まりは地域住民がメンテナンスしています。

私が視察した流域には、このリーキードラムが多数、設置されていました。

丸太は、人工林の間伐の伐倒木や、天然林の広葉樹を伐倒したものが使われていました。

コンクリート構造物を用いない、自然にやさしい減災策であると同時に、市民参加による減災活動という観点からも注目すべき取り組みのように思いました。

ヒノキ(ヒノキ科)



豊田市内の人工林で、最も広い面積を占めているのがヒノキです。

特に、最近50年位は、全国的にヒノキの植林が多くなりました。理由は、木材価格(材価)が、スギより高いからでした。

しかし、それは大きな間違いです。古くから、植林樹種について、言い伝えがあります。「尾根マツ・谷スギ・中ヒノキ」です。

それはヒノキの根が浅根性で、水分過多を嫌うからです。特に湿潤地では、根元近くのみ膨らむトックリ病が発生します。適地適材こそ、最も大切な理論です。

豊田市内では、もう、ヒノキの天然林はほとんど残っておらず、よく似たサワラが尾根筋に残っています。

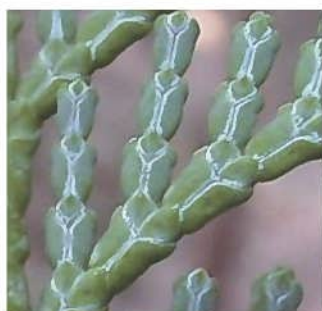
その違いは、サワラの葉の先が尖っていて、ちょっと痛いこと(痛いからサワラない!)、葉裏の白い筋模様の違いです。

サワラは「X」、ヒノキは、「Y」です。ちなみにアスナロは、「W」です。

樹木の観察は本当に楽しいものです。これからも楽しんでください!!



葉の裏で見る、木曽五木!



▲ヒノキ/葉裏の気孔帯はY字型



▲サワラ/X字型



▲アスナロ/W字型



▲ネズコ/裏が表か、よく分らない!

●1615年(元和元年)に、木曽の33箇村と裏木曽3箇村が、尾張藩領となる。●各地の城郭・城下町の建築用材として大量に木が伐採され、1665年には、木が切り尽され、荒廃した山が目立ってきた。●そのため尾張藩による林政改革が行われ、木材の伐採はもちろん、住民の立ち入りも禁止する「留山」が設けられた。●1708年には、五木を停止木として尾張藩の御用材以外の伐採を禁止し、「檜一本首一つ」と言い、盗伐、背伐などを犯した者は厳罰に処せられた。●この5つの樹木を「木曽五木」と呼ぶようになった。



▲コヤマキ/葉が細長い! 中央の溝には白色の気孔帯

森林学校講座の申込方法

1. 豊田市・森の総合サイトTomori にアクセス!

豊田市 トモリ 検索

2. アカウント登録 (初回のみ)

- 「楽しむ・学ぶ」ページ右上の **新規登録** をクリック
- 必要情報を入力し、**利用規約に同意して登録** をクリック
- 届いたメールのURLをクリックし、サイトで本登録をして完了!

3. 講座の申し込み

- サイト上部の「楽しむ・学ぶ」をクリックし、
- **申し込み** をするをクリック
- 必要事項を入力し、**登録する** をクリックし完了!

※こちらからも講座の申し込みができます

お問い合わせ・申し込み

●おいでん・さんそん森林学校運営委員会
担当/山本

●豊田市役所 森林課 0565-62-0602



●今年度7月号から「森林学校だより」に、厩治先生の記事が登場します。ヘルメット姿の先生しか見たことがないので、イラストは工事現場風ですいません! 原稿料も出ませんが、いろいろ教えてください、お願いします!

●6月2日、降り続く雨で、18年ぶりに矢作川の水位が危険なほど上昇しました。2000年豪雨の悪夢がよぎりましたが、セーフ! でも山間部のサバ土地帯では、各所で崩壊も。他人事とは思わなくて、森や河川に関心を持ちましよう!